

知事コメント

令和5年3月7日(火)

沖縄県では、本日(3月7日)の新規陽性者数は115名となっており、また、人口10万人当たりでは、全国平均を下回っています。直近1週間の前週比は1前後で推移していますが、新規陽性者数は引き続き、低い水準となっております。

新規陽性者数の減少に伴い、入院者数も減少しています。病床使用率は本日(3月7日)時点で3.1%となっており、警戒レベル2の目安である30%を大きく下回っています。

また、今年1月からインフルエンザ警報が発令されるなど、県内では流行が顕著でしたが、直近の報告数は3週連続して前の週を下回り、警報解除の水準に近づく等、インフルエンザの感染拡大は収まりつつあります。

本日(3月7日)開催されました、新型コロナウイルス対策本部会議においては、判断指標である病床使用率がレベル1相当であること、また、医療の負荷に関する状況や専門家等の意見を踏まえ、警戒レベルを2から1へ変更し、また、国に準じてマスク着用を見直した対処方針を決定したところです。

なお、対処方針の期間は、本日(3月7日)から5月7日までとなります。

まず、警戒レベルの変更に伴い、本日(3月7日)から適用となる主な見直しについてご説明します。これまで、医療を守るため、高齢者・妊婦・透析患者のほか、症状がつかず受診希望の方は、発熱外来、かかりつけ医を受診し、軽症の方は、検査キット等の自己検査による自宅療養をお願いしていましたが、現在、保健医療の負荷は小さいため、こうした呼びかけは終了します。新たに、警戒レベル1に対応した受診フロー「コロナかな?と思ったら」を作成しましたので、新型コロナに感染していないか不安がある場合にご参照ください。

その他、会食については「できるだけ同居家族やいつも一緒にいる方と行うこと」「大人数で実施する場合、できるだけ検査で陰性を確認すること」等の要請は、国の基準に準じて終了することとし、日頃から実施すべき最も基本的な対策を呼びかける内容としております。

次に、マスク着用の見直しに伴い13日から適用される内容についてご説明します。これまで、屋内では基本的に、マスクの着用を推奨することとしていましたが、13日以降は、マスク着用は、基本的には個人の判断に委ねられます。その際、本人の意思に反して、着脱を強いることがないよう、ご理解とご協力をお願いします。なお、学校におけるマスク着用の見直しについては、4月1日から適用されます。

一方で、医療機関受診時、また、高齢者等重症化リスクの高い方が多く入院・生活する医療機関や高齢者施設等への訪問時などは、高齢者等重症化リスクの高い方へ感染を防ぐため、マスク着用が効果的であることから、着用を推奨します。

その他、感染流行期に重症化リスクの高い方が混雑した場所へ行く時、あるいは、通勤ラッシュ等、混雑したバスやモノレールに乗車する際、また、施設の利用やイベント参加時に事業者から求められた際には感染から自身を守るためマスク着用が効果的とされています。

体調不良時に、通院等やむを得ず外出する場合、人混みは避け、マスクの着用をお願いします。

ワクチンに関するお知らせです。新型コロナワクチンについては、重症化を予防する効果等があります。オミクロン株対応ワクチン等の接種がまだの皆様におかれましては、個別医療機関もしくは県広域接種センターにおける早期の接種をご検討ください。

なお、県広域ワクチン接種センターについては、現在、商業施設等において、接種を行っておりますが、県全体のオミクロン株対応ワクチンの接種希望者数が減少傾向にあることから、令和4年度は3月25日に一旦終了いたします。当該会場での接種を希望されている皆様は、日程等についてご留意いただき、早目の接種をご検討ください。また、感染に不安のある県民向けの一般無料検査については、今月も継続していますので、ご活用ください。

現在、県内における感染状況は小康期になっていますが、今後、卒業式や送別会など多人数の交流、また、春休みにおける人流の増加等により、感染拡大につながる可能性があります。特に、県内では過去3年間、3月に感染拡大の傾向が見られたことから、警戒が必要です。

また、マスク着用に関する見直しが行われますが、基本的な感染対を全て緩めてもよいわけではありません。

感染拡大を抑制し社会経済活動を継続するため、引き続き、「3密の回避」「十分な換気」「手指消毒」「毎日の健康観察」等の実践をお願いいたします。